

— 気象講演会雑感 —

## 平成5年度北海道支部気象講演会

札幌管区气象台 富 沢 節 夫

平成6年度第一回支部理事会において、気象講演会について話し合いが行われ、支部事業の一つとして、気象知識の普及と啓蒙のために必要であることなどの理由から、開催することについて承認され、平成6年度支部総会において開催が決定した。

これを受けて、講演担当理事と支部事務局で実施計画を作成し、これに基づき行動を開始することにした。

まず、開催地については、これまで話題になっていた帯広市に目ぼしをつけて帯広測候所の協力が是非必要なため、折衝したところ快く引き受けてくれることになり、開催地は帯広市とした。

また、開催日時は、平成6年10月14日（金）午後（13時～15時）に『十勝の気象と生活（くらし）』をメインテーマとして、3題の講演（講師は地元から2名、札幌から1名）とし、目標入場人数は200～250名くらいとすること及び帯広測候所並びに日本気象協会帯広支部職員の皆様方にご協力を頂くことなどが決められた。

会場は、日本気象協会北海道本部並びに帯広支部のご尽力により、十勝毎日新聞社の勝毎ホールを確保することが出来た。

講演会の当日、担当理事、講師、それに事務局担当者は、朝9時にJRにて札幌を出発し昼前帯広に到着、昼食後直ちに会場に向かう。

講演会場は、現地協力機関の帯広測候所及び日本気象協会帯広支部職員の皆様方により準備が遅滞なく進められ、ほぼ完了しており、あとは開場を待つばかりとなっていた。

当日の天候は良好で、この分だと多数の入場者があると期待していたが、開演間近かになっても出足が鈍く心細くなってきた。

開演時刻の午後1時少し前になってから入場する人が増えてきたため、開演を10分間遅らせた。

結局、入場した人は70名となり目標人数を大きく割ってしまった。

これは、PRの方法に工夫が足りなかったことと、平日の開催であったことなどが影響したのかもしれない。

講演会は、事務局担当者の司会進行で始まり、地元に着した講演内容であったことから真剣に聴き入り、また、熱心な質問もあり気象に対する関心の大きさを示していた。

機会があれば再び帯広市において気象講演会を開催するべきだと感じた次第である。

最後に、今回の気象講演会を無事に催すことが出来たのも、各関係機関との折衝や一般市民に対するPR及び会場の準備、講演会場の運営において業務繁忙の折、数々のお手伝いを頂いた帯広測候所と日本気象協会帯広支部の職員の皆様の献身的なご協力によることが大きく、ここに厚くお礼申し上げます。